新・三種の神器

車内で

氷もアイスも保管できる冷凍機能

鏡面の天板もスタイリッシュ

マイナス25度からプラス20度まで設定可能

もともとSUVやミニバンのような積載量の多いクルマの人気が高まっていた昨今、パンデミックの影響でレジャーの種類が限定されていることもあって、車中泊やキャンプの人気が高まっている。

そうなると冷たいモノを保管したいという要望も高まるだろう。飲み物ぐらいなら保冷剤とクーラーボックスがあればそれなりの時間はもってくれるが、時間には限界があるし、氷やアイスとなるとそうはいかない。

しかし現代はグランピングの流行もあって、充実した装備でアウトドアを贅沢に楽しむスタイルも人気である。そうなると車載用の冷蔵庫、さらには冷凍冷蔵庫もほしくなってくる。

以前は車載用冷蔵庫の手頃な価格のモデルには冷凍機能がないことが多く、冷凍機能があるとかなり高価なものになっていた。しかし最近は、車載用冷凍冷蔵庫もリーズナブルな価格のものが出てきた。

ここで紹介するのはマイナス25度からプラス20度という幅広い範囲で温度設定が可能な冷凍冷蔵庫だ。

ユニークなのは、いずれもブラック鏡面仕上げの天板を採用し、以前の車載冷蔵庫のように、いかにも「アウトドア用品です!」という雰囲気ではなく、現代の高級車にもマッチするデザインになっていることだ。

また、タッチボタンタイプの操作パネルはよくできていてわかりやすく、急速冷凍モード/Ecoモードを選ぶことができる。さらに、バッテリーの電圧が設定値を下まわったら自動で電源を切り、電圧が回復したら再び自動でONにするというバッテリー保護機能を搭載するなど、便利な機能も搭載している。

サイズのバリエーションも豊富だが、価格のわりに容量もしっかり確保されている。それでいて重量も適度に抑えられていて、サイズにもよるが持ち運びはそれほど大変ではない。ノイズもうるさいというほどではなく、走行中ならほとんど気にならないだろう。

アウトドアレジャーでは大きな役割を果たしてくれそうなアイテムだ。

シートベルトで固定できるタイプの冷凍冷蔵庫。容量18ℓのモデル。消費電力は40W。サイズは幅610×高さ275×奥行き320mm。重量は11kg。騒音値は40db。同シリーズにはこのほかに22ℓモデルと28ℓモデルがある。

AVEST
車載用冷凍冷蔵庫
AV-SZQ18
価格：2万7000円

シートベルトのガイド付

フタを開けると、収納庫の脇にシートベルトを通すためのガイドがあり、シートベルトを使って後席等に固定しやすくなっている。

タッチボタンで操作

操作パネルはいずれのモデルもほぼ同じ。シンプルで操作方法も感触もわかりやすい。矢印ボタンで-25℃から+20℃の範囲で温度設定ができる。

仕切り板を活用できる

仕切り板が2ヵ所に装着でき、食材と飲み物を分けて入れたりもできる。仕切り板は簡単に外せて、外せば2ℓクラスのペットボトルも入れることができる。

AVEST
車載用冷凍冷蔵庫
AV-ZQ26
価格：2万6819円

26ℓタイプの冷凍冷蔵庫。天板が曲面になっているスタイリッシュなモデルで、消費電力は45W。サイズは幅320×高さ395×奥行き602mm。重量は12.4kg。騒音値は40db。同シリーズにはこのほかに32ℓモデルと55ℓモデルがある。

運転モードは2タイプ

運転モードは『Eco』と『急速冷凍』が選べる。『Eco』は消費電力を抑えるモード。『HH』が急速冷凍モードで、通常使用は『HH』を想定している。

フタは縦に開く

縦に置いて使うことを想定しているようで、フタも縦方向に開く。そのため大きく開けるには高さのある場所でないといけない。

クルマの電源で駆動

いずれのモデルもクルマのアクセサリーソケットから電源をとれるプラグ付。12V/24V兼用だ。また別売りで家庭用電源につなげるACアダプターも用意されている。

容量たっぷり

2ℓのペットボトルは、形状によっては立てて入れられないが、寝かせれば容量はたっぷり。350ml缶なら24本、500mlペットボトルなら20本、1.5ℓペットボトルなら6本入るという。

問 AVEST ☎053-414-5416 https://avestparts.jp
まとめ:斉藤精一郎 写真:前田惠介
※価格は全て税抜き/編集部調べ